

平成31年度 各学年の指導改善のポイント

国語	1年	2年	3年	4年	5年	6年
◎水・木・金の朝8:15～30に、朝学習の時間を設定し、基礎基本の充実を図ります。						
①丁寧に読み取って、自分の考えをもつ学習を充実させます。	さし絵や写真と結び付けたり、時や場所、登場人物に着目させ、行動や様子、気持ちを想像したりしながら読み取ることができるように指導します。教科書や詩の音読に継続的に取り組みます。	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付かせるために、挿絵を見せたりサイドラインを引いたりして、想像を広げながら読み取る指導をします。詩集や教科書を活用して音読に継続的に取り組みます。読書の時間を確保し、語彙を増やします。	段落や構成を考え、読み取る指導をします。登場人物の心情を表す言葉や繰り返して出てくる言葉に線を引き、読み取りに生かします。自分の言葉で感想を書く指導をします。音読カードを活用して音読に継続的に取り組みます。	大切な言葉や文を手がかりに、三部構成を意識させながら読み取らせます。書かれてある内容に対して、自分の考えをもつ学習をします。抑揚、「」などを意識して正しく音読できるように指導します。	音読の機会を多く取り入れます。文のまとまりやポイントを押さえながら要旨を意識して読む指導をします。段落ごとの要点を読み解かせながら授業を進めます。読んだ後には、感想や考えたことなどを発表させ、話し合わせます。	内容や要旨を捉えたり、文章構成をまとめたりして、自分の考えと比較できるようにします。音読する時間を多く取り入れ要旨を意識しながら読んだり、指導をします。説明文の読み取りの際には段落ごとのまとまりを考えながら読むようにします。
②多様な書く活動を取り入れます。	経験したことを基に文を書く機会を増やし、楽しんで書けるようにします。特別なことではなく身近に起きた事柄を簡単な文に書き表せるようにします。	書くための手順を示し身近な体験や思ったことを、順序を考えながら文章に表せるようにします。毎週様々な課題で日記を書き、書くことに慣れ親しむようにします。想像したことを短い文章や詩で表す楽しさを味わうようにします。書いた文章を読み直して、自ら正しく書くようにします。	構成をはっきり提示したワークシートを活用することで書きたいことや伝えたいことの中心を考えた簡単な三部構成の文章が書けるようにします。作文、手紙、スピーチメモ、俳句、新聞など書く活動を多く取り入れます。	書きたいこと・調べたいことを見付けさせ、三部構成を意識して書けるように指導します。新聞作り、詩や短歌の視写・聴写などの書く活動を工夫します。	段落ごとのまとまりや構成をはっきりさせてから書くように指導します。目的に応じて資料や情報を収集し、自分の考えを表現するための構成メモを作成させることで書く活動を充実します。	視写、報告文、新聞やパンフレット作り、作文など自分の課題について調べ目的や意図に応じて書き分けられるようにします。感想文を書く際にも、要点をまとめて書けるようにします。また、自分の考えたことを取り入れて、他教科でも書けるように指導します。
③言葉の定着を図るために、継続的な学習を進めます。漢字の学習では、読み・書き、成り立ち、熟語づくりなども含めて、正確に読み書きできる指導の充実を図ります。	ひらがな、カタカナを正しく習得するために、姿勢や筆記具の持ち方、筆順、文字の形を意識できるように繰り返し指導します。漢字学習ノートなどを活用し、漢字の定着を図ります。読み聞かせや本の紹介を行い、読書する機会を増やします。みんなの前でスピーチする機会を増やし、話の順序を考えながら丁寧に言葉を使って話すことができますようにします。	漢字の成り立ちなどを盛り込んだドリルやプリント、漢字ミニテストなどを活用し、漢字の定着を図ります。読書習慣を身に付けるために、読書タイムの充実読み聞かせなど、読書指導を計画的に行います。みんなの前でスピーチする機会を増やします。	漢字ドリルなどで反復練習をし、ミニテストで定着を図ります。送りがなも含めて、書きの練習を充実させます。辞書を使い、熟語などを調べる機会を多くします。読書の習慣を身に付けるために、読み聞かせをしたり図書室に行く機会を多くしたりします。	漢字ドリルなどで反復練習をし、ミニテストで定着を図ります。送りがなも含めて、読みの練習を充実させます。図書館の使い方や自由読書・調べ学習に伴う読書、教室内に辞書を使えるようにするなど、多様な読書活動に取り組みます。辞書を用いて言葉や漢字を調べる習慣を付けます。調べた語句や漢字に付箋を付け、辞書を日常的に使うようにします。	漢字ドリルで、反復練習に取り組み、ミニテストで定着を図ります。漢字の意味を理解させながら、はね、はらいに着目させた練習をさせます。辞書を活用する機会を多く作り、分からない言葉はすぐに確認させることにより、児童の語彙を増やします。	漢字の反復練習をし、ミニテストで定着を図ります。苦手な送りがなを意識させ、漢字の意味も理解させながら、書く指導を充実させます。読書や詩の暗唱を通して豊かな言葉に触れ合う時間を増やし、語彙を増やします。習った漢字や言葉を活用する力を付けます。辞書を活用する習慣付けのために辞書を引く時間を積極的に取り入れます。新聞等を活用し、語彙を増やす機会を設けます。身近なことから題材を選び、根拠を明らかに的確に話す力と、意図をつかみながら聞く力をつける力を付けていきます。

社会	3年	4年	5年	6年
①地図を活用した指導を充実させます。	学区や立川市の様子に興味をもたせ地図や資料とのつながりが分かるように指導します。 方位や地図記号を資料の中から見付け出したり、地図の中に記入したりする活動を取り入れます。 地図記号のワークシートを活用し、より理解を深めるように指導します。 教室に方位や地図を掲示し、日常的に目にふれられるような環境をつくりまします。	地名探しクイズをしたり、出かけたところを地図で確認したりして活用する機会を増やします。東京都の区市町村の位置と特徴等に関心をもち、絵地図・カルタ等で指導します。	積極的に地図帳を活用させることにより、都道府県や国土の位置や地形の特色に関心をもちます。また、地図帳を使って、農業、水産業、工業などの産業と地形や気候の特色との関係を理解できるようにします。地図帳と地球儀を使って、世界と日本の位置の関係を立体的に理解できるように指導します。	国名や県名などをニュースや社会的な事象と関連付け、地図や地球儀資料等を使い理解を深めます。人物や文化遺産を学習する時には、地図や資料、インターネットを利用して自分で調べる時間を増やします。地図等を使い関係の深い国・県・地域なども確認できるように指導します。
②資料の見方や読み取り方を、計画的に指導していきます。	学区や市内の地図、パンフレットなどに書き込みや色分けなどをして、資料が何を示しているかを読み取らせまします。	絵・地図・表・グラフなどの資料を身近な生活と結びつけ、比べながら正確に読み取り、どのようなことが分かるのか考える力を育てます。事実と事実を関連付けながら働く人の工夫や努力などに気がかせまします。課題解決のためにインターネットや図書資料を利用してまとめていきます。	教科書に掲載されている棒グラフ折れ線グラフなどの資料の特徴に応じて、具体的な資料の読み取り方や視点を明示して読み取らせまします。ねらいに応じて資料を選び、既習事項と関連させて読み取る力を伸ばします。また、教科書以外に資料集や地球儀、地図、インターネットなど幅広い資料を積極的に使用します。いろいろな資料を使い、必要な情報を選択し活用していく力を身に付けまします。	学習課題を設定し、自ら解決するために地図や地球儀・年表・インターネットや図書資料等を利用して情報を取捨選択して内容を読み取る力を伸ばす機会を設定します。教科書に掲載されている統計資料は、視点を明示して読み解かせまします。読み解いた意見は、お互いに発表させ、正確な読み取りができるように促します。
③学習したことを自分なりにまとめていく力を育てていきます。	町たんけんや校外学習などで調べたことを、絵地図やパンフレット、新聞、レポートなどの形にまとめまします。 事実として分かったことと、感想を区別してまとめまします。	見学したことや体験したことから自分の考えをもち、資料やメモしたことを活用して、パンフレットや新聞の形にまとめまします。まとめたことを自分なりに工夫して発表まします。	テーマを絞った調べ学習を行い、資料などを活用し、調べた過程や結果を、キーワードや自分の考えも含めて新聞やレポートの形などにまとめ表現する力を付けさせまします。その発表も行わせていきます。	学習課題に即した自らの課題を見付け、調べたことを新聞やレポート形式にまとめ、表現する力を付けさせまします。 地図や年表等の資料を活用し、調べて分かったことや、自分の考えたことを他の人にも分かりやすいように新聞やレポート形式、ノートにまとめる活動を増やまします。

算数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
◎木・金曜日の放課後にステップアップ教室を60分間行い、基礎基本の充実を図ります。						
◎ベーシックドリル診断テストの結果を保護者にもお知らせし、家庭学習への協力を得まします。						
①繰り返し学習を通して、基本的な計算力を身に付けさせまします。	基本的な10までの計算が指などを使わずにできるように繰り返し練習させまします。 繰り上がり、繰り下がり計算に重点を置き、プリント等を使って繰り返し定着を図りまします。	繰り上がり、繰り下がりのある計算や、かけ算九九の定着を図るために、プリントや東京ベーシック・ドリルを使って、計算方法を定着させ、繰り返し指導まします。	基本的な四則計算が正しくできるようにプリントや東京ベーシック・ドリルを繰り返し指導まします。基本的なわり算、3桁のたし算ひき算、2桁×2桁、3桁×2桁のかけ算の定着を図りまします。家庭学習では計算復習プリントを計画的に出し、くり返し練習で定着を図りまします。	基本的な四則計算が正確に速くできるようにプリントや東京ベーシック・ドリルを用いて繰り返し指導まします。3桁÷2桁のわり算の筆算を中心に、小数のたし算とひき算、小数×整数、小数÷整数の計算の定着を図りまします。	個に応じた指導の時間を増やし、一人一人の計算力を高めるためプリントや東京ベーシック・ドリルを活用まします。小数のかけ算わり算、分数のたし算ひき算の定着を図りまします。また、公倍数・公約数について性質を調べ、理解・定着を図りまします。	個に応じた指導の時間を増やし、一人一人の計算力を高める指導をまします。基本的な四則計算が確実に身に付くよう、プリントや東京ベーシック・ドリル等で繰り返し指導まします。分母が異なる帯分数のたし算ひき算、分数のかけ算わり算の定着を図りまします。
②作業的・体験的な学習活動を充実させまします。	具体物やブロックなどを操作する活動を取り入れ、誰もができたという満足感をもてるように指導まします。 形・時間・長さ・かさ・広さの学習に、具体的なものを用い、活動を通して友達と関わり合いながら考える力を伸ばす指導を工夫まします。	身の回りの事象から表される場面を探したり体験的な活動を取り入れたりしながら、考える力を伸ばすようにまします。 友達同士で教え合い考えを深める活動を指導まします。 ICT機器などを活用し、視覚にうったえた授業により児童の理解の支援をまします。	時間・かさ・長さ・重さの学習に、具体的な用具を使って、実際の体験を通して考えながら理解を深めるようにまします。また、コンパスを使って作図する方法を身に付けさせまします。	三角定規やコンパス・分度器などを使い、垂直や平行を備えた平面図形を描く活動を通して、構成要素に注目して図形に関する理解を深めるようにまします。また、作業的な活動を多く取り入れ面積の概念を理解し、長方形・正方形の面積を求めさせまします。	コンパス・三角定規・分度器などの用具を正しく使い、平面図形を描き、垂直・平行などそれらの位置関係に着目した考察ができるようにまします。また、合同な図形や立体について、辺や面、頂点などの構成要素に着目して分類する活動を充実させまします。	身近にある箱で面や辺の数を確かめたり、見取図や展開図を描くことを通して立体図形の特徴を理解してまします。また、図形の合同で学んだ知識をもとに縮図や拡大図の学習を通して、図形に関する見方を深めるようにまします。
③文章問題を通して、問題を解決する力を付けていきます。	文章を読んで大切な言葉を見付けたり、絵や図に表し友達に説明したり、発表したりしながら考える力を伸ばす指導をまします。また、イメージしたことを式に表し、答えが導き出せるように指導をまします。	文章問題のキーワードに着目させたり、絵や図を取り入れたることでイメージをもたせ、正しく立式できるようにまします。問題の場面を簡単な図に表すことができるように指導まします。	かけ算やわり算の性質に基づき、文章問題のキーワードにも着目して、絵や図をかきながら、数量の関係を確かめて答えが求められるようにまします。テープ図の理解を深め、使えるように指導まします。	かけ算やわり算の性質に基づき、問題を絵や図で示し、数量の関係を確かめて演算決定ができるようにまします。□や△などを用いて、式に表すことができるようにまします。	具体的な場面を数直線や図に表し数量の関係を確かめ、自分の考えを整理して問題を解くことができるようにまします。自分の考えを説明したり伝え合う活動を取り入れまします。	具体的な場面を数直線や図に表して、数量の関係を確かめて問題を解くことができるようにまします。速さなどの文章題で、距離・速度・時間の相互関係が理解できるよう指導まします。

理科	3年	4年	5年	6年
①実験や観察の基本的な仕方を指導していきます。	観察の視点や方法を丁寧に教え、課題をもって観察ができるようにします。問題→予想(仮説)→方法→実験→結果→結論(考察)という実験の仕方を身に付けさせます。	実験器具の正しく安全な使い方を丁寧に指導します。既習の学習や生活体験を基にして、観察や実験を行います。問題→予想(仮説)→方法→実験→結果→結論(考察)という実験の仕方を身に付けさせます。	問題解決型の学習(問題→仮説→方法→実験→結果→結論)や観察の方法(過程や条件に目を向けながら課題を追究するなど)を統一し、実験や観察を進める手順を分かりやすくします。教師は、予備実験を十分にを行い、ポイントをはっきり示せるようにします。	実験の進め方(問題→仮説→方法→実験→結果→結論)や観察の方法(性質や規則性に目を向けながら観察・探究する)を統一し、実験や観察を進める手順を分かりやすくノートにまとめます。方法を考える段階で結果を求めるためにはどの器具や薬品を使い、どう実験したらよいか考える時間を設けます。
②実験結果を通して、物の見方や考え方を養います。	今までの経験を基に、自分の予想を立てさせます。自分が立てた予想と実験結果を比べ、ものの性質や事象をとらえられるように指導します。「AとBを比べて」をキーワードに考察を書けるように指導します。	実験結果や観察の結果を基に、ものの性質や事象を比較したり、関連付けたりして考えられるよう指導します。さらに、日常生活と結び付けて理解できるようにします。	仮説を立てて実験し、結果を図やグラフで表し、ものの性質や事象を比較したり、関連付けたりして考えられるよう指導します。さらに、日常生活と結び付けて理解できるようにします。	日常生活の体験から仮説を立てて調べ、追求する活動を行います。さらに性質や規則性、特徴についての科学的な見方や考え方を養えるようにします。

生活科	1年	2年
実際に活動したり、体験したりすることで、自分とのかかわりに関心をもち、自立への基礎を養います。	学校探検などの具体的活動や体験を通して、自立への基礎を養うとともに2年生と関わる経験をさせます。学校の先生や友達、家族と関わりながら、周りの人の存在の大切さに気付かせます。アサガオや他の植物を育て、日々の成長を観察することで、自分自身の成長に気付かせます。気付いたことや楽しかったことを、言葉、絵、動作化などの方法で表現できるようにします。身近な昆虫や生き物・自然に興味をもたせるように指導を工夫します。	町探検や地域の人との交流などの具体的活動や体験を通して、自分とのかかわりに気付いていけるようにします。学校の先生や友達、家族と関わりながら、周りの人の存在の大切さに気付かせます。ミニトマトを育てたり、生き物を飼育したりすることで、成長の変化や命があることに気付かせます。写真や家族へのインタビューを基に、自分自身の成長を振り返り、感謝の気持ちに気付いたり、成長していく自分に気付いたりさせます。気付いたことや楽しかったことを、言葉、絵などの方法で表現できるようにします。

音楽	1年	2年	3年	4年	5年	6年
表現や鑑賞の活動を通して、音楽の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養います。	わらべ歌や音楽遊びなどで音楽に親しみ、全員が楽しく取り組める授業にします。鍵盤ハーモニカの指導では、個別指導で一人一人に合った指導を行い、確実に技能を身に付けさせていきます。	わらべ歌や音楽遊びなどで身体表現を取り入れながら、全員が楽しく活動できる授業にします。鍵盤ハーモニカの学習ではペアやグループ活動を取り入れ、楽しみながら技能が身に付くようにします。	様々な曲を歌い、歌う楽しさを身に付けさせ苦手意識をもたせないように取り組んでいきます。リコーダーでは基礎的な奏法を身に付けさせるため、全体指導と個別指導を効率よく組み合わせ、技能が身に付くようにします。	リコーダーの基本的な奏法を身に付けさせるために、ペアやグループ学習を取り入れ、友達と楽しみながら技能が身に付くようにします。音楽の諸要素を聴き取りやすい曲を取り上げ、鑑賞で学んだことを表現に生かせるようにします。	鑑賞と表現を関連させ音楽の諸要素を感じ取り、それを表現に生かせるようにします。読譜はリズムカードなどを使用し、全員で楽しく活動できる工夫をします。グループで聴き合う活動を取り入れ、工夫する意欲と表現力を高めます。	思いや意図をもって表現できるように、全体で歌ったり、グループで表現したりしながら授業を進めていきます。表現と鑑賞を関連させた授業を行います。グループで聴き合う活動を取り入れ、工夫する意欲と表現力を高めていきます。

図工	1・2年	3・4年	5・6年
①作品制作を通して喜びを味わい、自己肯定感につなげていきます。	思いのままに表したり、作品などを見たりしながら作り出す喜びを味わえるように指導します。自分の作品を楽しみながら作り出す授業を積み重ねていきます。言葉掛けを多くし、意欲を喚起するようにします。話をよく聞き、学習内容やねらいを理解し、すすんで取り組む児童の育成を目指します。	自分の思いで表現したり、鑑賞したりしながら作り出す喜びを味わえるように指導します。自分らしさを大切に、自信をもって作り出せる授業を積み重ねていくことで自己肯定感を育てます。話をよく聞き、学習内容やねらいを理解し、すすんで取り組む児童の育成を目指します。	自分の思いをもって表現したり、鑑賞したりしながら作り出す喜びを味わえるように指導します。自分の感性を働かせて自分らしく表現する喜びを感じながら活動し、造形を通して自己肯定感につなげていくようにします。学習課題をつかみ、作品を最後まで完成させることで喜びを感じる児童の育成を目指します。
②豊かに感じ、発想を生かして表現を工夫するようにします。	感じたことや材料などを基に表したいことを思いついたり、形や色、作り方を考えたりできるように指導します。材料や用具を工夫し、発想したことを具体的に作品に表現できるように支援することで、展覧会を目標に、より良い作品作りを目指します。	感じたことや見たこと、材料や場所などを基に表したいことを思いついたり、形や色、用途などを考えたりできるように指導します。身の回りの物から表現したいことのヒントを見つけ、作品に工夫をし、展覧会を目標に、より良い作品作りを目指します。	感じたことや見たこと、材料や場所などの特徴をもとに表したいことを思いついたり、形や色、用途や構成を考えたりできるように指導します。自分の作品に生かせる材料や要素を集め、それを生かし、展覧会を目標に、自分らしい作品を発想したり、工夫したりする授業をします。
③感覚を働かせながら工夫して表すことができるように技能を養います。	体全体の感覚を働かせながら材料や用具を使い工夫して表すことができるように指導します。材料の特徴や道具の使い方の基本を知り、それを安全に、効果的に使える技能を身に付けられるようにします。	手や体全体の感覚を働かせながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫できるように指導します。材料の特徴を生かしたり、道具を上手に使ったりすることで、自分の作品をよりよいものにする技能を身に付けられるようにします。	感覚を働かせ経験を生かしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、様々な表し方を工夫できるように指導します。作品に効果的な材料を選んだり、道具の使い方を工夫して、自分らしい表現ができる技能を養えるようにします。
④作品の鑑賞を通して、そのよさや面白さを感じ取れるようにします。	身の回りの作品などの形や色などから、面白さに気付いたり、楽しさを感じたりできるように指導します。友達の作品の良さを感じ、言葉を掛け合ったり、認め合ったりできるように授業をします。ワークシートを使って思いや感じたことを深めたり整理したりする機会を作ります。	身近な作品の形や色などから、表現の感じの違いをとらえたり、よさや面白さを感じ取ったりできるように指導します。自分の作品との違いや、個性的な表現の面白さを感じ取り、それを認め合えるような授業をします。ワークシートを使って思いや感じたことを深めたり整理したりする機会を作ります。	親しみのある作品の形や色などから、表現の意図や特徴を捉えたり、よさや美しさを感じ取ったりできるように指導します。作品の良さを感じたり、表現の特徴を感じ取ったりしながら、自分と比較し、その違いを楽しんだり感動したりできるようにする機会を作ります。
	完成した作品を学校公開・展覧会などで校内に展示することにより、友達や保護者、地域の方などに作品を見て頂く機会をもちます。他学年の作品を見てそのよさを感じ、上級学年に憧れたり、作品の良さを感じる感性を育てます。		

家庭科	5年	6年
実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようとす態度を育てます。	一日の生活を振り返り、家族の一員として自分ができることを考え、家族とのふれあいや団らんに関心をもたせるようにします。調理実習では、調理道具の扱い方やゆでの調理方法を学び、ご飯・味噌汁の調理を通してより良い食生活に生かせる力を育てます。裁縫実習では、道具の安全な使い方、手縫いの仕方、ミシンの使い方を作品づくりを通して丁寧に指導します。互いに教え合い、学び合う場を設定し、家庭生活に役立つ力を育てます。	学習したことを家で実践する活動を通して、家族の一員として、また家庭や地域の一員としての自覚をもたせるようにします。調理実習では、いためる調理方法を学び、家族が喜ぶ食事を計画工夫し、普段の家庭生活にすぐに生かせる力を育てます。裁縫実習では、学習した手縫いやミシンの使い方を生かして、生活に役立つ作品づくりをし、より良い家庭生活を工夫しようとする態度を育てます。

体育	1・2年	3・4年	5・6年
授業や全校の取組によって健康な心と体を作り、運動に親しむ態度を育てます。	きまりを守り、協力して楽しく運動ができるように指導します。様々な動きのもととなる運動感覚を養えるような遊びや運動を工夫します。友達の良いところを見つけ励まし合えるようにします。 体力調査では、全体的には全国や東京都の平均に比べ少し低い水準でした。特に脚筋の瞬発力（反復横跳び・立ち幅跳び）等に課題がありました。授業の中で瞬発性を高める活動を取り入れていきます。体の柔軟性（長座体前屈など）についても課題がありました。体をほぐす運動とともに、体を動かすことの楽しさや喜びを味わわせる活動を取り入れ、積極的に運動できる児童を育てていきます。	チームや友達と協力して取り組む姿勢や公平な態度を養うために、学習形態（チーム・ペアなど）を工夫して、友達との学び合い、関わり合いを大切にします。動きのポイントを明確にした学習カードを活用し、自分の課題を意識できるようにします。学び合いをより有効にさせるためにその授業での「今日の動きのポイント」をはっきり提示します。 体力調査では脚筋の瞬発力（反復横跳び・立ち幅跳び）や持久力（20mシャトルラン）等に課題がありました。授業の中で瞬発性を高める運動や、持久力を高める運動を取り入れます。また、体を動かすことの楽しさや喜びを味わわせ、休み時間の外遊びにつなげていきます。	運動会などの行事を生かし、体力と気力の充実、達成感を味わわせます。学び合いを充実させるために児童相互の声掛けを指導して行きます。動きのポイントを明確にした学習カードや掲示物などを活用します。 体力調査では、全体的に良い結果を残したものの、持久力と投力に少し課題がありました。授業では縄跳びや持久走など、楽しみながらねばり強く続ける運動を取り入れて持久力の強化につなげます。また、体力アップ週間などに積極的に参加し、体全体を使ったフォームで投げることを意識したり、遊びの中で投力を高める運動を取り入れて育てていきます。

外国語活動	3年	4年
外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、楽しく学べるようにします。	楽しい授業の中で、外国語の発音を聞いたり、発音したりしていくことで、外国語に慣れ親しむ活動を増やします。ALTや友達と外国語を使って会話するなどの活動を通して、コミュニケーションの楽しさを感じ、学ぼうとする意欲の育成を図ります。	楽しい授業の中で、外国語の発音を聞いたり、発音したりしていくことで、外国語に慣れ親しむ活動を増やします。ALTや友達と外国語を使って会話するなどの活動を通して、コミュニケーションの楽しさを感じ、学ぼうとする意欲の育成を図ります。
	5年	6年
外国語を通じてコミュニケーション能力の素地を養います。	外国語の発音を何回も繰り返し聞いて、発音していくことで、外国語に慣れ親しむ活動を増やします。ALTや友達と外国語を使って会話するなどの活動を通して、コミュニケーション能力の素地を養うような活動の場を増やします。知っているゲームを外国語でやってみたり、外国のゲームをやってみたりするなど楽しい活動を積極的に取り入れ、外国の文化に慣れ親しむ活動をしていきます。	外国語の発音を何回も聞いたり、自分で発話したりしてコミュニケーションの楽しさを体験し、コミュニケーションを図ることの大切さが分かる活動を増やします。ALTや友達と外国語を使って自分の考えを伝えるなどコミュニケーション能力の素地を養うような活動の場を増やします。ゲームやチャッツ、歌、ALTとのコミュニケーションを通して、外国語の音声やリズムに慣れ親しみ、言葉の面白さや豊かさに気付けるようにします。小中連携活動を通して、中学校の先生と一緒に活動したり、中学校でも学習と結びつけた活動をしたりして小中連携の充実を図ります。

『学習規律』を定着させ、児童自らが学習に取り組む態度を示すように導き、「体験的学習・問題解決学習」等を計画的に進める。「はい・たつ・です」「せ・め・て」を全校で一斉に取り組む。
放課後に、補習学習を行い、基礎基本の習得を中心とした確かな学力の定着を図る。
教員をはじめ、学校・学年・学級での言語環境を整え、言語に関わる力・美しい言語を使う力を養う。まずは挨拶から。授業の始め終わり、食事の前後、さよなら等。
基礎基本・言語活動による、児童同士のよい関わり合い、高め合う関わり合いを、最終的な目標とする。